

平成28年度 魅力ある高校づくり推進事業 第2回協議会 議事要旨

日 時	平成28年 10月13日(木) 10:00～11:30
場 所	八百津高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>浅野 知子 八百津高校を育てる会(八百津東部中学校校長)          各務 博紀 八百津高校学校評議員(八百津町商工会前青年部長)          金子 政則 八百津高校を育てる会(八百津町町長)          神谷 一久 八百津高校学校評議員(神谷技研社長)          榊間 誠 八百津高校を育てる会(八百津中学校校長)          鈴木 彰 八百津高校学校評議員(八百津高校PTA会長)          林 成行 八百津高校を育てる会(錦津小学校校長代理 教頭)          堀部 義郎 八百津高校を育てる会(八百津町教育長)</p> <p>(高校側)</p> <p>高木 久美 校長          工藤 敏郎 教頭          三宅 克典 事務長          兼松 義治 教務主任          志比 顕秀 進路指導主事</p>
議事概要	<p>1 高校の現状と活性化策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の小学生にとって、遠足やサマー学習会、町内の祭りのボランティア等で八百津高校生とふれ合うことは、大変プラスになっていると感じている。地元の方々にも、八百津高校生の活躍は十分に伝わっていると思う。</li> <li>・ 夏休みに八百津高校の先生が町内の中学校を訪問して実力養成セミナー(国・数・英)を開催いただけることに感謝している。中学生は、ほぼ全員が参加している。</li> <li>・ 町内の中学生向け「ボート体験」は、1回だけの行事ではなく、機械を使っでの練習から水上での体験まで大変充実しており、これだけ御準備いただける高校側の御努力に感謝している。</li> <li>・ 八百津高校は、少人数指導と地域と一体となった取組が特色である。現在、八百津町の「まち会・ワークショップ」に八百津高校生が参加してオリジナルのスイーツ作りに取り組んでいる。出来上がりが楽しみだ。</li> <li>・ 八百津高校のキャッチフレーズを工夫したい。例えば、「進学にも就職にも対応できる学校」、「無限の可能性をゴールにできる学校」というのはどうだろうか。</li> <li>・ 八百津高校が単独校として活性化するために、平成29年度の入学者選抜で志願者を増やし、入学定員をしっかりと確保したい。町内の中学生には八百津高校の魅力が十分伝わっていると思うので、その魅力がさらに可茂学区全体の中学生に伝わる方法を工夫したい。学区内全ての中学校を地道に訪問する必要があるのではないか。</li> </ul>

## 2 デュアルシステムについて

- 他の高校の先生方とデュアルシステムについて話をするとき、「それは八百津町だからできることだ。」と、いつも羨ましがられる。地元の支えに感謝している。
- デュアルシステムの実習先決定に当たって、生徒たちは企業の概要を読み込んで希望を出し、およそ第2希望までの企業で受け入れていただいている。
- デュアルシステムは中学校の進路説明会でも高い評価を得ており、八百津高校の人材育成の取組を強力にアピールすることができている。
- 専門学科で秋に実施している高校一日入学について、八百津高校は普通科なので実施していないが、この時期、デュアルシステムの紹介をする機会を設ければ、中学生向けの宣伝になると思う。
- 中学校での職業体験は2日間であるが、デュアルシステムは1年間である。生徒が大きく成長できる取組であるので、気骨のある生徒を育成してほしい。
- 松川教育長が八百津町立潮見小学校を訪問された際、どの子も実体験をもとにして、「私は将来〇〇になりたい。」と自信をもって語る姿に感心されていた。高校生になっても、デュアルシステムの取組を通じて、実体験をもとに自信をもって、自分の将来の夢を語れる生徒を育ててほしい。
- 八百津高校のデュアルシステムの魅力は、就職と決めている生徒はもちろんだが、高校段階では進学か就職か、どの分野を選択するのか決めていない生徒への有効なキャリア教育となる点にあるのではないかと。3年生ではなく、2年生で取り組んでいる点に意味があると思う。
- デュアルシステムで生徒を受け入れている側の意見として、進学を希望している者も含めて、実習生の人数を拡大してほしい。仕事の実際を通じて大人との会話力を高めるなど、デュアルシステムの教育効果は大きいと思う。
- 地元の高校の取組を地元の企業が支えなくてはいけないと思っている。商工会として、生徒が選べる実習先リストを増やせるように協力していきたい。
- PTAとしても、デュアルシステムのような学校の取組を、機会を見つけて早い時期から、保護者にPRしていきたい。